



加藤久子 著

歯科衛生士のための インプラントメンテナンス

日本歯科大学東京短期大学／野村正子



A4判変／104頁
定価 3,990円
(本体 3,800円＋税 5%)
医歯薬出版刊
(2010年5月発行)

私は歯科衛生士養成の短期大学の教員として、学生を連れて、口腔ケアの実習のために特別養護老人ホームに行くことがあります。一昨年のこと、ある寝たきりの入所者の口腔内にインプラントの存在を発見したとき、ドキッとしました。その方は、口から食べることができず、すでに胃瘻の状態でしたので、インプラントの存在に目をとめる人は誰もいませんでした。しかし、そのインプラント周囲組織には、炎症があったのです。

いままでインプラントに関連した書籍といえば、患者さんとの対応や手術での介助を含め、インプラントを埋入して、そのインプラントが無事に機能するまでに重さが置かれていることが多かったような気がします。しかし患者さんのライフステージから考えれば、インプラントの目的は、装着することではなく、その後の幸せな食生活を長く継続することであることに間違いはありません。そのため、インプラントを装着した歯科医院で最後まで責任をもつことが大切です。

すなわち年齢を重ねて通院が不自由になったら、こちらから訪問したり、病院・施設との連携をはかり、口腔状態の維持・管理を行うこと、さらに不本意ながら炎症のコントロールが不可能になってしまった場合には、インプラント体の除去を含め、冷静な対応をとることがその歯科医院の使命なのではないかと考えます。

本書の前半部分は、インプラントの基礎知識の確認に始まり、患者さんへのコンサルテーションから同意を得ることまでと、インプラント手術について歯科衛生士として押さえておくべき知識が網羅されています。とりわけ、インプラントと天然歯の共通点と相違点についての知識は、炎症をコントロールする歯科衛生士にとって必須事項です。さらに後半部分は、本書の核となるメンテナンスの行い方がわかりやすく説明されています。私たちが悩みがちなインプラントのホームケアの指導やプロフェッショナルケアで使用する器具類の選択についても、実例が豊富にあげられているのでとても勉強になります。

あなたの勤務する歯科医院がインプラント治療を始めたら、あなたもインプラントについて勉強を始めなくてはなりません。まずはこの1冊を手に取り、歯科衛生士にとって必要な知識を系統的に身につけ、実践してほしいと思います。